

交付金事業に付随する重要業績評価指標(KPI)の指標一覧[加速化交付金]

資料2-1

事業名	連携自治体	シート No.	総予算額 (円)	国費充当額 (円)	決算額 (円)	不用額 (円)	KPI	担当部課等	指標値	(単位)	目標年月	実績値	(単位)	計測時期	H28数値 確定の時期	評価			効果発現要因
																有効性	効率性	総合評価	
筑波山地域ジオパーク構想を活用した地域づくりの連携事業	笠間市, 土浦市, かすみがうら市, 石岡市, 桜川市	③-1	15,000,000	15,000,000	15,000,000	無し	筑波山入込数	経済部ジオパーク室	190	万人	平成29年3月	195	万人	平成29年3月	確定値	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	平成28年9月につくば市と周辺5市をエリアとする筑波山地域が日本ジオパークに認定され、その見どころの一つである筑波山についても認知度が上がったため。
		③-2	-	-	-	-	facebook, Twitter フォロワー数	経済部ジオパーク室	300	件	平成29年3月	Twitter:346, Facebook:566	件(人)	平成29年3月	確定値	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	平成28年9月に筑波山地域が日本ジオパークに認定されたおかげで数値が上昇した。(Facebookフォロワー数 9/8 382件→ 9/12 433件 4日間で51件増加) ※9月9日認定発表
地域公共交通広域連携事業	下妻市, 桜川市, 筑西市, 常総市	③-3	10,000,000	10,000,000	9,564,480	435,520	つくば市中心部からバスでアクセス可能な地域(隣接自治体役場等)	都市計画部総合交通政策課	7	地域	平成29年3月	2	地域	平成29年10月	確定値	高:成果が向上(高水準を維持)している	中:適切な費用対効果が得られている	A:成果を維持して継続実施	平成28年10月から広域連携バスの実証実験運行を開始したため、公共交通で筑西市, 桜川市まで移動することができるようになったため。
		③-4	-	-	-	-	広域連携バスの利用者数(隣接自治体間へバスで移動する人数)	都市計画部総合交通政策課	6,000	人	平成29年3月	20,896	人	平成29年12月	確定値	高:成果が向上(高水準を維持)している	中:適切な費用対効果が得られている	A:成果を維持して継続実施	平成28年10月から広域連携バスの実証実験運行を開始し、積極的に普及広報活動等を実施したため
『健幸長寿日本ーをつくばから』の加速化 ~少子・高齢化の課題克服を目指して~	つくば市単独	③-5	43,891,000	11,633,000	31,573,000	-	合計特殊出生率の向上	保健福祉部健康増進課	1.48	%	平成29年3月	1.45	%	H28.12	確定	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	地区別においてTX沿線地区の数値が高いため、市の全体的な合計特殊出生率の向上を牽引していることから、指標値には届かなかったが、前年度実績値1.41を上回ることができた。
		③-6	-	-	-	-	「健幸長寿日本ーをつくばから」に関連する事業参加者の一人当たりの年間医療	保健福祉部健康増進課	1.00	%	平成29年3月	-	%	H28.12	H30.3	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	平成28年度運動教室参加者の医療費は分析中である。平成27年度運動教室等参加者の一人当たり医療費は、前年比103.0%と増加している。ただし、全体の一人当たり医療費は前年比105.6%であるため、伸び率を2.6%抑制している。
		③-7	-	-	-	-	連携企業数の増加	保健福祉部健康増進課	40	企業	平成29年3月	40	企業	H29.1	確定値	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	企業連携教室について周知をし、さらに一周年記念イベントの開催等により連携企業数が増加した。
		③-8	-	-	-	-	「健幸長寿日本ーをつくばから」関連事業参加者実人数	保健福祉部健康増進課	9,000	人	平成29年3月	7,910	人	H29.4	確定値	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	「健幸長寿日本ーをつくばから」事業のスローガンが定着しつつあり、参加者延人数は増加しているが、複数の事業に参加している人もおり、実人数は、指標値を下回っている。

